

社会福祉法人 天真会

令和元年度 無限の可能性向上プログラム（自園評価）

結果分析シート



園名：真愛保育園

実施日：令和元年 10月26日

# 無限の可能性向上プログラム（自園評価）結果分析シート

法人では、人間性の幅を広げ、専門性を高めていくという事を目的として、自己評価、マンパワー向上シート、クラス目標設定会議等を実施し、自ら目標を定め、振り返りながら自らの力を伸ばしているところです。

そして、「自園評価」を実施することで、園全体はもちろん、地域福祉にも視野を広げていながら、保育所の役割などについて再認識し、保育の質を高めていくことを目的とします。また、職員が様々な立場から、園の活動や内容について振り返り、課題発見、提案、考察、改善を繰り返していきながら、より良い保育環境を創造していくことを目的とします。

皆で、保育の専門性を高めていきながら誇れる保育園づくりをしていきましょう。保育園は一人ひとりが主役です。（参考）『保育所保育指針 第4章 保育の計画及び評価』

## 第1章 総則

	総合ポイント	考察
1 子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができています。	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との交流や連携を図り保護者や地域社会へ情報を開示し、適切かつ円滑に利用できるように努めている。</li> <li>・苦情解決責任者である施設長の下で苦情解決担当者(主任)を定め苦情の受付から解決までの手続きを明確にし、その内容や一連の経過、結果について記録するなど苦情対応のために整備し開示している。また、質問に関して検討内容など職員会議で些細なことも共通理解を図り実践に役立っている。</li> <li>・保護者との総理解を図り、信頼を築いている。</li> </ul>
2 地域社会との交流や連携を図り、保育の内容を適切に説明するよう努めている。	4.3	
3 職務上知り得た子どもや保護者に関する情報について、正当な理由なく家族や友人にも、話さないようにしている。また、保育士でなくなった後においても同様であることを知っている。	4.7	
4 SNS、ブログ、ツイッター、FACEBOOK等に、児童や職員、園の情報を流出しないということを理解している。	4.9	
5 あなたの園の苦情解決システムについて説明できる。	4.3	
6 自己判断で回答せず責任者への報告をし、解決のための話し合いができる。	4.7	

## 第2章 子どもの発達

	総合ポイント	考察
7 子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもの状況、成長、発達、特性アレルギを保育士間で共有し、一人一人の発達過程に応じて保育するように心がけている。又子どもの個人差にも十分配慮し、自己を十分に発揮できる環境を整えていくよう努めている。</li> <li>・入園時に保護者と面談を行い、生育環境や発達について話をし、連携に努めている。入園後も継続している。</li> </ul>
3 子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮して保育をしている。	4.3	
9 大人との信頼関係を基に、身近な環境を通し成長することが乳幼児期の発達の特性であることを理解している。	4.6	
10 心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握している。	4.4	
11 子どもの発達過程のおおむね8つの区分を理解し、一人一人の発達に合わせ援助していくことの重要性を理解している。	4.0	
12 発達過程に「おおむね」がつくことで、個人の発達には幅があり、前後の年齢につながるを持って成長していることを理解している。	4.4	

## 乳児保育

	総合ポイント	考察
13 ひとりひとりの育ちに合わせ、家庭と連携しながら離乳食を進めている。	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の温かく丁寧な触れ合いを重ねる中で、子どもは安心して過ごせる保育士と、家庭的な雰囲気の中で過ごしている。</li> <li>・担当制保育を行い、保育士との間に信頼関係を築き、人としての基盤づくりに努めている。</li> <li>・余裕をもって計画したり、話し合いを大切にしたりすることで一人ひとりの成長、発達に合った保育を行っている。</li> </ul>
14 抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳している。	4.6	
15 おむつ交換は、やさしく声をかけながら行っている。	4.5	
16 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保している。	4.5	
17 喃語には、ゆったりとやさしく応えている。	4.5	
18 しぐさや声や動きを介して発する要求を察知し、それに応じた適切な対応をしている。	4.6	
19 子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。	4.6	
20 制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人一人に合わせた対応をしている。	4.1	
21 日々の生活の中で、子どもが安心感と自己肯定感を持てるような温かい言葉かけをしている。	4.4	
22 子どもの頭を飛び越えて、大きな声で注意や指示をしていない。(緊急を要する時は除く)	4.3	
23 いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保している。	4.4	

### 第3章 保育の内容

- 24 保育所保育は「養護と教育」が一体となって展開されることに留意している。
- 25 養護と教育は、子どもの生活や遊びを通して相互に関係を持ちながら、総合的に展開されることを理解している。
- 26 「養護」は子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために、保育士等が行う援助や関わりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解している。
- 27 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。

#### 養護

##### 〈生命の保持〉

- 28 登園してくる子どもに、あいさつをしながら、視診・触診をして健康状態を確認している。
- 29 保護者から健康状態の申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼、ぜんそくなどの有無などの既往症について、すべての職員に対して周知するとともに、その発症時の対応についても保護者と話し合いがなされている。
- 30 毎日の清掃のほか、布団の消毒や乾燥を定期的に行っている。
- 31 玩具や砂場の消毒、園庭の危険物の排除や固定遊具の点検などを常に行っている。
- 32 各部屋の採光、温度、湿度、音、換気に配慮している。単に一定の温度に保つだけでなく、夏は外気温との差を5℃程度に保つなどして、子ども自身の環境順応性を失わせないようにしている。
- 33 一人一人の排泄間隔を把握し、トイレに行くことをせかしたり強制したりせず、一人一人のリズムに合わせている。
- 34 登園時、泣く子どもの状況に対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしている。
- 35 登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。

#### 教育

##### 健康

- 36 衣類の着脱にあたっては、自分でしようとする気持ちを大切に、励ます、褒めるなどして、着脱への意欲が持てるよう必要な援助を行っている。
- 37 戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている。
- 38 友だちと一緒に体を動かすことを楽しめるように働きかけている。
- 39 健康な生活のリズムを身に付けるよう、子どもの一日の生活の流れを考えながら保育している。
- 40 戸外の活動の後や、食事の前、排泄の後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう援助している。
- 41 食事、排泄など、生活に必要な活動の仕方を身に付けるよう、働きかけている。
- 42 衣類の着脱を自分でやろうとしている子どもの気持ちを大切にしている。
- 43 危険に気づいて行動できるよう、安全についての心構えを日頃から話し合っ共有している。

総合ポイント	考察
4.6	・研修等に積極的に参加し学ぶことにより「養護と教育」について理解を深めている。
4.6	・子どもの欲求、思いや願いを察知し、その時の状況や経緯をとらえながら温かく受け止め共感し、励ますなどして子どもに安心感や信頼、保育士をよりどころにできるように、努めている。
4.4	
4.5	

総合ポイント	考察
4.7	・一人一人の子どもが快適に過ごせよう、基本的欲求が満たされるように、関わっている。
4.7	・朝の受け入れは、特に丁寧に行い一日健康で過ごせるように配慮している。
4.8	・布団乾燥は業者に入ってもらい、集団衛生と消毒に努めている。
4.0	
4.1	・固定遊具の点検は定期的に行っている。 ・砂場の消毒は、不定期なので、曜日を決めるなど、定期的に行うようにする。
4.2	
4.7	
4.7	

総合ポイント	気づき	これからの取り組み
4.6		・手洗い、うがいなど習慣づくように子ども達と保育士が楽しみながら、行っている。
4.9		・一人一人の健康状態を、保護者と連携しながら、一日の生活リズムをつけられるようにしている。
4.7		・外で活動した後、給食の前、後等の手洗い、うがいの徹底を促し、健康に過ごせるようにしている。
4.7		
4.6		
4.6		
4.6		
4.4		

## 人間関係

	総合 ポイント	考察
44	4.4	<p>・友達同士はもちろん、異年齢交流、小学生、中学生、高校生との交流、また地域の高齢者との世代間交流を通して様々な年齢の方々と交流する体験を大切にしている。</p> <p>・外国の方との交流の機会が少ないので、是非交流の場を設けたい。</p> <p>・運動会・発表会などで、友達と協力してダンスをつくったり、組体操を組み立てたり、劇遊びを作り上げたりしていく中で協調性や、思いやりの心、達成感が育っている。</p> <p>・遊びの中でルールを守ると友達との遊びが楽しくなるという実感をもったり、自分たちでルールを作ったりする中で、生活上の決まりを理解し守ろうとする基盤ができています。</p>
45	4.4	
46	4.5	
47	4.5	
48	4.5	
49	4.4	
50	4.5	
51	4.4	
52	4.7	
53	2.5	
54	4.5	
55	4.6	
56	4.4	
57	4.6	

## 環境

	総合 ポイント	考察
58	4.7	<p>・保育園の周辺は、公園、竹林、山などの自然環境に恵まれているため、散歩などを通して四季の移り変わりなどを感じることができる。</p> <p>・冬には、氷を作ってその過程を調べたり自然現象の不思議さにもつながっている。</p> <p>・日常の保育を通して数に触れる機会も多く、例えば給食の配膳時にお皿を並べたり、おかずをつぎ分ける時に数を伝えたりしている。</p> <p>・粘土遊びや砂遊びなどを通して形の変化などの面白さや発見などを感じている。</p> <p>・標識や形などについては、散歩中に見つけたり絵本の読み聞かせを通して自然と身についている。</p> <p>・様々な経験を続けていながら年齢に合った声掛けや、取り組みを行っている。</p>
59	4.7	
60	4.8	
61	4.6	
62	4.7	
63	4.4	
64	4.5	
65	4.6	
66	4.7	
67	4.7	
68	4.2	
69	4.0	
70	4.1	

## 言葉

- 71 正しく、美しい言葉で子どもに話しかけている。
- 72 子どもの伝えたい気持ちを言葉だけでなく、身振りや表情、仕草などでも理解し応答することができる。
- 73 子どもがしたいこと、してほしいことを話しているとき、最後までゆったりと聞くよう努めている。
- 74 子どもが見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしている。
- 75 子どもが人の話を注意して聞くことで、人の話に共感することや、話の内容を理解することができるように関わっている。
- 76 基本的な生活習慣に基づいたあいさつ「ごめんなさい」「ありがとう」など、生活に必要な言葉をいつも使えるように保育している。
- 77 子どもたちの興味や発達過程に応じた絵本や物語を選んでいる。
- 78 日常生活の中で、文字や記号のやりとりのある遊びを楽しめるよう工夫している。

総合  
ポイント

### 考察

- 3.8 ・0歳児より絵本の読み聞かせを日常生活の中で行っている。3・4・5歳児は、子どもが絵本を見たり、物語を聞いたりして楽しみ、言葉の楽しさや美しさに気づいたり、想像上の世界や未知の世界に出会い、様々な思いを巡らし、その思いを保育士等や友達と共有したりしている。
- 4.4
- 4.3 ・朝の会でお休みの日の経験を、みんなの前で話したりお友達の話の聞いたり、伝え合う喜びを味わっている。
- 4.4
- 4.3 ・保育士は、子どもたちに、正しい言葉で伝えるように心がけていきたい。
- 4.7
- 4.6 ・年に2回挨拶運動週間を設け、挨拶の心地よさや、大切さを伝えている。
- 4.1

## 表現

- 79 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わえるような機会をもうけている。
- 80 様々な素材や用具に親しみ、工夫して創作活動を楽しめるよう環境を設定している。
- 81 音楽を聴いたり、歌を歌ったり踊ったりする機会をつくっている。
- 82 子どもが簡単な楽器を使う機会を提供し、音楽に親しみを持ち楽しめるように工夫している。
- 83 自分のイメージを言葉などで表現したり演じたりして、遊ぶ楽しさを味わえるようにしている。
- 84 みんなで一緒に表現することのよこびを、味わえるような機会をつくっている。
- 85 人前で表現する機会や場面を、保育の中でできるだけ多く用意している。
- 86 生活する中で、身の回りにある様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りに気付き、心地よさを感じる機会を作っている。

総合  
ポイント

### 考察

- 4.2 ・園の周囲は自然環境に恵まれており、四季折々の草花を摘んだり、動いている虫を見たり、捕まえたりすることで喜び、驚き、うれしさ等、心が豊かになる機会がたくさんある。
- 4.2
- 4.8 ・朝の会を通して、季節の歌を歌う楽しさを感じている。
- 3.6
- 4.4 ・日々の活動の中で、絵を描いたり、物を作ったり遊びに取り入れられている。
- 4.4
- 4.6 ・砂場でまごとししたり、砂山を作ったりして、見立て遊びを楽しんでいる。
- 4.3
- 4.3 ・発表会に向けて、役になりきり、ストーリーのイメージを友達と共有し、表現遊びへと展開している。

#### 第4章 保育の計画及び評価

	総合 ポイント	考察
87 園の理念や保育方針を説明することができる。	4.4	・毎年、保育理念・方針について共有し、保育に当たっている。
88 保育課程は、保育所保育指針に示された子どもの発達過程や保育の内容に沿ったものとなっている。	4.4	・「天真爛漫な子ども達を真愛の心で、育み育てる」の保育方針のもと、子どものありのままを受け止め、共感し、傾聴しのびのびと過ごせるように創意工夫を行っている。
89 保育課程は、入所している子ども及び家庭の状況や保護者の意向、地域の実態を考慮し、保育所に適したものを作成している。	4.6	
90 指導計画作成は、必ず保育課程に基づいて作成している。	4.6	
91 年・月案などの長期的な指導計画と関連させ、子どもの生活に即した週・日案などの指導計画を作成している。	4.7	・一人一人の、家庭環境や生育歴等を理解し保育に当たっている。
92 できる・できないといった目に見える姿だけでなく、目に見えない子どもの心情・意欲や態度を理解しながら指導計画に反映させている。	4.5	・子どもの生活や発達を見通した、長期的な年間カリキュラムと、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の成長に即した月のカリキュラム、0・1・2歳児は、一人一人に即した個人カリキュラムを立てて、実践している。
93 指導計画を作成する際は、一人一人の子どもの発達過程や子どもの状況に配慮している。	4.6	
94 指導計画は、日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して作成している。	4.6	・異年齢交流のカリキュラムを立て、実践していくことで、自分より年下の子、または自分より年上の子と交流することによって、多様な体験が得られている。
95 あなたの指導計画の反省・評価は、次の指導計画作成に反映できるものとなっている。	4.4	
96 障がいのある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障がいの状態を把握し、適切な環境を作り、障がいのある子どもが安心して生活できるよう配慮している。	4.6	・校区の小学校の祭りに、年長児が太鼓を演奏させてもらったり、就学に向けて期待をもっていけるように連携をとったりしている。
97 障がいのある子どもの保育については、園においては個別のケース会議などを行い、発達の状況と対応の仕方を確認している。	4.6	
98 障がいのある子どもの特性に配慮した個別の計画を作成し、保育を行っている。	4.6	
99 障がい児保育、特別支援教育などに関する研修にすすんで参加している。	4.6	
100 障がいのある子どもを持つ保護者の気持ちを受け止め、話をする機会などを設け、支援している。	4.6	
101 療育、医療機関などの専門機関から、必要に応じて助言を受けている。	4.5	
102 統合保育の意味を知っている。	4.4	
103 小学校と交流する機会を設けている。	4.7	
104 小学校教諭と意見を交換する機会を設けている。	4.7	
105 保育所児童重要録は、保育における養護及び教育に関わる5領域の視点を踏まえ、一人一人の子どもの良さや全体像が伝わるように記入している。	4.6	
106 地域の自然、人材、行事や公共施設などを積極的に活用するよう指導計画を作成している。	4.4	
107 保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを知っている。	4.6	
108 保育所は保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならないことを認識している。	4.6	
109 自己評価など、自分の保育を振り返る機会を定期的に持っている。	4.5	
110 あなたの保育を同僚などに積極的に公開し、意見を聞くなど自分の保育の自己評価につなげている。	3.9	
111 園長・主任からの指示や会議などで結論が自分の意見と違うときも、それに従って気持ちよく協力している。	4.1	
112 自分の保育実践について、自分とは異なる他者からの意見を、感情的にはならず謙虚に受け止めることができる。	4.3	

第5章 健康及び安全(其の一)

	総合 ポイント	考察
113 嘱託医と歯科医による定期的な健康診断を行い、その結果を保護者に伝えている。	4.9	・子どもの出生前、出生後の発育発達等を、保護者と連携を取りながら情報共有している。
114 清掃薬品・消毒薬などは、鍵のかかる場所または子どもの手の届かない場所で保管・管理し安全の徹底を図っている。	4.8	・日々の保育の中で、嘱託医や専門機関と連携しつつ子どもの対応について話し合い、一番良い方法で関わっている。
115 検温は1日2回（午前・午後）を基本とし、必要に応じて随時行っている。	4.9	
116 午睡の状態（呼吸、顔色、嘔吐、汗）を常に観察するとともに、SIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している。	4.9	・内科検診、歯科検診、尿検査等定期的に行い、子どもの一人一人の健康を維持している。
117 家庭からの連絡帳の記入を毎朝見て、睡眠時間、授乳の時間等、必要事項のチェックを行っている。	5.0	・予防接種年齢に応じた計画的な接種を保護者に啓発している。
118 身長・体重などの定期的な計測の結果を、保護者に文書で伝えている。	5.0	・感染症の疑いのある子は、かかりつけ医、委託委の指導の下、意見書、登園届等医師の許可のもとで登園が可能となり、感染防止に配慮している。
119 身長・体重などの定期的な計測から子どもの発育状況を把握して、必要な時は肥満・やせの状態をグラフで記録している。	4.9	
120 一人一人の子どもの出生時の状況、その後の発育・発達などを細かく把握している。	4.4	・救命救急の講習会に参加し、会議を通して学びを共有している。
121 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状況等に応じて保護者に連絡するとともに経過を記録している。	5.0	・火災（避難訓練）は様々な出火場所を想定し、月一回行っている。
122 高熱、脱水症、呼吸困難、痙攣といった子どもの症状が急変した時や、事故など救急対応が必要な場合の対応について周知している。	4.7	・散歩に行くときは、事前に担任が下見に行き安全を確認して実行している。
123 救命処置ができるように普通救命講習を受講している。	4.7	
124 予防接種は、標準的な接種年齢のうちに接種するのが望ましいことを保護者に伝えている。	4.1	・エピペンは全職員が取り扱えるように園内研修で周知している。
125 感染症が発生した際には、口頭及び文書や掲示板等で保護者に伝えている。	4.9	
126 登園停止基準については、意見書や登園届を元に、入所児等に保護者に説明している。	5.0	
127 保育所において薬を与える場合は、医師の指示に基づいた薬に限定し、その際には保護者に病院名・薬の種類・内服方法を具体的に記載した薬依頼届を持参してもらっている。	4.9	
128 嘔吐物・便などは迅速かつ確に処理、消毒を行い、その際、マスク・使い捨て手袋などを用いて二次感染の予防に努めている。	4.9	
129 火災や地震・水害発生に備え、緊急時の対応についてマニュアルを作成し、想定した避難訓練を定期的の実施している。	4.9	
130 事故や災害に適切に対応するためのマニュアルがあり、正しく理解し行動できる。	4.7	
131 施設の安全点検を定期的に行っている。	4.4	
132 戸外散歩に行く際は、事前に散歩経路や散歩先について異常や危険性がないか点検し、記録をつけている。	4.6	
133 子どもが危険な場所、危険な遊びがわかり、安全に気を付けて行動するよう指導している。	4.7	

第5章 健康及び安全(其の二)

	総合 ポイント	考察
134 事故防止のためにヒヤリハットとした出来事を記録し、分析して事故予防対策に活用している。	4.6	<p>・アレルギー疾患のある子は、マニュアルを作成し、保護者と医療記録簿を取り交わし、全職員がそれぞれの役割を分担し対応の内容を習熟している。</p> <p>・毎月、給食会議を行い、食事の環境、離乳食やアレルギーについて情報共有している。</p> <p>・アレルギー食提供について、年に1回保護者と面談を行い、園での対応について家庭、保育、給食が一体となって連携をとっている。</p> <p>・事故が起きた時に迅速に対応できるよう、職員が連携し保護者への連絡、医療機関との連絡等のマニュアルを作成している。また、ヒヤリハットを記録、考察し、再発がないように努めている。</p> <p>・食育年間計画書をもとに、子どもの発達に応じた、食育活動を行っている。</p> <p>・夏野菜や芋等、子ども達と栽培の計画を行い、種や苗植え、水やり等を通して、大きくなっていく過程を観察したり、収穫の喜びを味わったりしている。また、クッキング等を行い、食材や作ってくださっている方に感謝の気持ちを育てている。</p> <p>・給食で苦手な食べ物がある場合は、減らしたりしながら、量を調整し、少しでも食べる意欲が高まるように配慮している。</p>
135 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については全職員に周知されている。	4.4	
136 食中毒発生時に原因究明が行えるよう、検査と記録を取り保管している。	4.9	
137 子どもが調理体験をする場合は、衛生・安全面での事故を防止するため、クッキング段取表などを作成し周知徹底している。	4.9	
138 子どものアレルギーに関して、入園時に保護者から十分な聞き取りを行い、職員全員が把握するよう職員会議等を通じて連絡を取り合っている。	5.0	
139 除去食を提供する場合には、間違いがないように個別のお盆やトレーなどで分け、調理師同士や保育士と確認している。	5.0	
140 小児科医やアレルギー専門の医師の指導を受け、「アレルギー疾患生活管理指導表」に記入をもらい、アレルギー除去を行っている。	4.9	
141 保育者は食育の計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解している。	4.6	
142 子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように、雰囲気作りなど工夫している。	4.7	
143 年齢に応じた形態でそれぞれの食事時間に合わせて配膳し、適温給食を実施している。	4.7	
144 自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つよう心掛けている。	4.8	
145 あいさつの意味を知らせ、「いただきます」「ごちそうさま」と感謝を持って食事ができるように努めている。	4.9	
146 ゆとりのある食事の時間を確保し、食事する部屋が温かな親しみとくつろぎの場となるように遮光やテーブル、椅子、食器、食具、また調理室や保育室などの環境に配慮している。	4.4	
147 偏食や好き嫌いがある子への対応を園内で話し合い、共通理解している。	4.2	
148 偏食や残さず食べることを直そうと、過度に叱ることがないように配慮している。	4.6	
149 個人差や食欲に応じて量を加減できるようにしている。	5.0	
150 子ども達が育てた収穫物などを調理し、食材への関心や食べる意欲を育てている。	4.9	
151 その日の昼食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせている。	4.8	
152 年齢、月齢に応じた食事の量や形態（固さや大きさ等）を理解し、一人ひとりの成長に応じた食事を提供している。	4.7	
153 旬のものや季節感のある食材を使用し、年中行事と関連づけて食文化に興味を持たせている。	4.8	



## 第6章 保護者に対する支援

- 154 保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有している。
- 155 保護者懇談会や保育参加などの機会を通して、子育てについて保護者と共通理解を深めたり、保護者同士の交流の場を設けたりしている。
- 156 保護者の思いを受け止め、様々な内容の相談・依頼に適切に対応している。
- 157 保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけている。
- 158 常に保育に関する情報収集や技術向上を心掛け、専門家の自覚を持って保護者にアドバイスができる。
- 159 送迎時やおたより帳などでの保護者と日常的な情報のやり取りを大切にしている。
- 160 必要に応じて保護者との個別面談を行っている。
- 161 あなたの保育に批判的な保護者に対しても、丁寧に意見や要求を受け止めようとしている。
- 162 保護者からの相談内容によっては担任の保育士がすべて対応するのではなく、主任・園長などが対応している。
- 163 虐待を疑われる子どもの情報を得た場合、速やかに主任・園長に報告し、要保護児童対策地域協議会や児童相談所などの機関に照会、通告を行う園の体制を理解している。

総合  
ポイント

- 4.9
- 4.5
- 4.7
- 4.6
- 4.3
- 4.8
- 4.7
- 4.6
- 4.9
- 4.7

考察	
4.9	・日々の連絡や、送迎時の会話、保育参観、クラスたより、運動会、発表会、入園前の見学、個人面談等で、保護者と連携をとり、子どもの成長を共有し、喜びあう機会を設けている。
4.7	・いつも相談しやすい環境を心がけている。
4.6	・嘱託医、のびのび発達センターなどの専門機関と連携をし、保育環境や保護者支援などを実施している。
4.3	
4.8	
4.7	
4.6	
4.9	
4.7	

## 第7章 職員の資質向上

- 164 あなたは保育士としての人間性や倫理観を高めるために、常に新しいことにチャレンジし、自己研鑽している。
- 165 施設長は一人一人の職員の資質の向上、及び職員全体の専門性の向上を図るために自己評価や保育所内外の研修を実施している。
- 166 研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技術の向上に努めている。
- 167 身だしなみ（爪、髪型、髪の色、まつ毛、カラーコンタクト、ピアス等）の清潔感を意識している。

総合  
ポイント

- 3.9
- 4.6
- 4.4
- 4.9

考察	
3.9	・職員は、自己研鑽のため、研修に参加したり、園内研修で学びあっている。
4.6	・キャリアアップを目的とする研修に参加し、専門職としてのキャリアを形成するように努力している。
4.4	・身だしなみには、清潔感を保つように気を付けている。
4.9	

